

## 仕訳問題 その4 (問題)

次の各取引について仕訳をしなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金預金	別段預金	受取手形	売掛金	売買目的有価証券
消耗品	貯蔵品	前払保険料	備品	備品減価償却累計額
保管有価証券	差入有価証券	長期前払保険料	支払手形	買掛金
前受金	借入金	借入有価証券	預り有価証券	保証債務
商品保証引当金	資本金	新株式申込証拠金	売上	受託販売
有価証券利息	固定資産除却益	仕入	保険料	減価償却費
受取手数料	消耗品費	手形売却損	固定資産売却損	固定資産除却損

1. 霞が関商店は、普通株式 2,000 株の増資を行うため、公募価格@¥3,500 で新株の引受けの募集をしたところ、申込期間中に 3,200 株の応募があり、受け取った代金は別段預金とした。なお、資本金の増加は、払込期日に記帳する。
2. 鶴ヶ島商店は、平成 25 年 6 月 12 日に、若葉株式会社の社債（期間 5 年、利率年 3%、利払日は 3 月 31 日と 9 月 30 日の年 2 回）のうち、額面総額 500,000 円分を売買目的で購入し、売買手数料と前回の利払日の翌日から購入日までの端数利息を含んだ代金 500,000 円は小切手を振り出して支払った。
3. 坂戸商店は、高坂商店より販売を委託されていた商品を完売し、以下の売上計算書を作成し、同店に送付するとともに、委託者の手取り金は小切手を振り出して送金した。なお、荷為替手形と、委託者負担の諸掛および売上高は既に処理されている。
 

売上高…1,500,000 円

諸掛…引取費：20,000 円、受取手数料：売上高の 10%、荷為替手形：1,000,000 円

手取代金…各自算定
4. 松山商店（決算年 1 回：3 月 31 日）は、平成×5 年 6 月 30 日に、使用している備品（取得原価：2,000,000 円）が型落ちしたため除却した。この備品は、平成×2 年 4 月 1 日に購入したものであり、定率法（償却率：年 20%）によって償却し、間接法で記帳しているが、当期分の減価償却費の計上もあわせて記入すること。また、処分価値は 0 円である。
5. つきのわ商店は、嵐山商店から、嵐山商店が売買目的で購入した有価証券を借り入れた。なお、嵐山商店における有価証券の帳簿価額は 400,000 円であるが、借入日における時価は 350,000 円である。
6. 小川商店は、前期首において、向こう 30 か月分の保険料として 90,000 円を支払い、前期末決算において、前払保険料勘定および長期前払保険料勘定を用いて繰延処理をしていたが、当期首に当たり、適切な費用の期間帰属のための仕訳を行った。
7. 竹沢商店は決算において、当期に購入した収入印紙 20,000 円が未使用であることが判明した。なお、購入時に費用として処理を行っている。
8. 男鹿商店は、鉢形商店から商品 600,000 円を仕入れ、代金のうち半額は男衾商店を名宛人とする為替手形を振り出し、残額は掛けとした。
9. 淀商店は、手持ちの約束手形 400,000 円を銀行で割引き、割引料を差し引かれた残額 390,000 円を当座預金口座に預け入れた。なお、保証債務の時価は手形額面金額の 2%とし、保証債務費用は手形売却損に含めて仕訳すること。
10. 寄居商店は、前期に販売していた A 商品 50,000 円に対する修理の依頼を受けたが、破損が酷く、修理が不可能であると判断したため、新品の A 商品を代品として発送した。なお、商品保証引当金が 60,000 円設定されている。